

いわき明星大学図書館報

Bulletin of

The Iwaki Meisei University Library

一図書館利用者のつぶやき

いわき明星大学 科学技術学部長 竹中 久

図書館とは何か？ 図書館はどうあるべきか、と言った深遠な話題はさておいて、いわき明星大学図書館とわが身の関わりを振り返って見ます。

図書館に足を運ぶうちの8割は、併設学習センターのカフェでコーヒーを頂くことです。ついでに新刊書や雑誌のコーナー、新聞ラックなどをぶらぶら回ってパラ読みします。本格的な図書館の利用は残りの2割で、それもエアコンの効いた環境を利用していると言うのが本音です。広い意味での学習や勉強といった際に使う書籍も、書き込むこともあるので個人的に購入しています。

では図書館は不要かと言えば、それは全く違います。参考にしたい本、確かめたいデータや数値、本当に不必要な事柄かどうかを確かめるために見たい本、廃刊や絶版で手に入らない本、高価で手の出ない資料など。ここ一番の時に、かつ系統的に資料を調べる時に、決定的な意味で利用しております。つまり図書館は私にとって知的情報の交差点といったような存在です。

コンピュータ情報機器があれば、紙で作られた本という媒体を集積している図書館は、もう役割を終えたと言うべきでしょうか。最近流行している電子書籍と言うか、データベースが

あって端末だけを持ち歩けば、用が足りるでしょうか。

確かに、紙が発明されて、それまでの羊皮紙は姿を消しました。巻物は綴じた製本に代わりました。現代ではデジカメが普及して銀塩写真は壊滅的打撃をこうむりましたが、しかし保存しておくだけならばともかく、やはり写真はプリントアウトしてアルバムに製本して楽しんでいるようです。人間は電子ディスプレイを見るよりは、紙媒体で本を読み、絵画や写真を見たりするほうが合っているのかもしれませんが。

しばらく前にインターネットホームページが1億件を超えたそうです。ページの最初だけを集めて製本しても1億ページになる勘定ですから、200ページの本に換算して50万冊。常に内容更新されている情報集の数として考えると、想像を超えるボリュームです。学術情報と言っても現在ではコンピュータ抜きには考えられません。

個人蔵書を処分するに忍びなく、寄贈を申し出る人が後をたちませんが、その際には電子化する費用も併せて寄付する時代が来るでしょう。電子技術の進展に伴って今後、図書館がどのような方向に変化してゆくか、大変面白い話題です。

目 次

- 一図書館利用者のつぶやき
いわき明星大学 科学技術学部長 竹中 久…………… 1
- 情報化時代の図書館活用 人文学部 心理学科主任教授 富田 新…………… 2
- インタビュー 学習サポーター…………… 3
- 図書館利用状況…………… 4
- 図書館トピックス…………… 4

情報化時代の図書館活用

いわき明星大学 人文学部 心理学科主任教授 富田 新

情報化の時代と言われるようになってから随分と経ちました。1983年に学術分野にNSF ネットが開放され、その後、商業ベースでも用いられるようになってから、情報伝達の仕組みの変貌ぶりには目を見張るものがあります。現在、文字、音声、映像など、実に様々な情報が、インターネットを介してやり取りされ、私たちの生活を支えています。

心理学研究の分野でも、学術雑誌の多くがCD-ROM等の電子媒体によって提供されるようになってきました。電子データベースの充実もはかられ、論文の検索は以前に比べて格段に簡単に行えるようになりました。私の恩師が若かった頃は、まだコピー機すらなく、図書館に雑誌が到着すると、先を争ってそれを借り出し、手書きで論文を写しとったと聞いています。そういった時代からすると、現代はまさに“魔法の時代”と言っても言い過ぎではないかもしれません。

電子技術に支えられた情報化のスピードはとても速く、全てをフォローしてゆくのはなかなか困難なことです。最近では、iPad（アイパッド）等の新しい情報端末が注目され話題となりました。これまで“書籍”（印刷物）によって提供されてきた知識や情報が、電子情報で居ながら手に入れられる時代が、そこまでやって来ているということかもしれません。

その一方で、現代人の本離れや活字離れが懸念され、文字による“知”や“文化”の衰退が危惧されていることも事実です。多くの人が携帯電話などの情報端末を当たり前のように使いこなしている現代において、“知”や“文化”の衰退が危惧されているというのは、ある意味皮肉なことと言えるでしょう。

ネット等で公開されている断片的情報を、そのまま使用することに慣れ過ぎてしまったことが、そういった危惧を生み出している一因かと思われまます。問題が複雑であればあるほど、獲

得した情報を鵜呑みにするだけでなく、自己の判断や発想に基づき、情報を取捨選択し、活用してゆく能力が求められます。“情報検索”の技術は比較的簡単に身につけられるかもしれませんが、情報を使いこなす（“情報活用”）の能力は、“自分で考え、その成果をまとめ、発信する”といった地道な体験を重ねることでしか身につけません。情報化が進んだ現代でも、この点は従来と全く変わっていないのです。

現代を生きる私たちには、単に情報を検索し蓄えるだけでなく、必要な情報を選別し、新しい発想に基づいて、それらを活用してゆく能力が求められていると言えます。

こういった総合的な情報活用能力（“情報リテラシー”）を身につけることは、大学教育の教育目標の1つともされています。私の所属する心理学科では、平成22年度より1年生対象の演習科目（「心理学科基礎演習」）を新設し、収集した情報に基づき、自分の考えをまとめ、発表する、という体験型授業を始めたところで

です。総合的な情報活用の仕方について学ぶとき、図書館は実に心強い味方になってくれます。先に挙げた「心理学科基礎演習」の授業の大部分が図書館の施設を利用して行われています。また図書館のスタッフの皆さんが、様々な形で授業をサポートしてくれています。

図書館と情報教育センターが統合され、“学術情報支援室”と組織改編されたことはすでにご存知のことと思います。このような組織改編は、“本の貯蔵庫”という従来の役割を超えた、“総合的な知のサービスセンター”として図書館が新しく生まれ変わったことを意味していると思われまます。情報化の進展にともない、“総合的な知のサービスセンター”として図書館が果たす役割は、今後益々重要になってゆくだろうと強く確信している次第です。



眞光 友紀子

大学院修士課程
臨床心理学専攻

Q. 学習サポーターは
学部生にとってどんな存在なのでしょう

相談に来てくれる学生さんたちからは、「話しかけやすい」「親近感がある」と言ってもらっています。「気軽に相談できる存在」なのかなと思います。

Q. どんな相談が多いですか

レポート課題や卒論のお手伝い。時には、友人・恋愛関係のお話で来る学部生もいます。それから進学や就職の相談が多いです。



吉田 大祐

大学院修士課程
物理工学専攻

Q. 学習サポーターのお仕事を通じて
新しい発見はありましたか

一番の発見は、文献の取寄せです。いわき明星や市内の図書館にはない文献も、他大学の図書館へ複写依頼をしてもらえます。今まで手配してもらった文献は100%手に入りました。とても便利です。

Q. サポーター同士で情報交換を
行うことはありますか

「学習サポーター対応記録票」というのがあって、基本的にはそこで情報交換をしています。どんな相談があって、どんな受け答えをして解決したか、お互いに確認をしています。

INTERVIEW

2階Bカウンターにいる 心強い味方

学習サポーター

今年2年目になった「学習サポーター」のサービスは、学部生の心強い味方です。図書館2階Bカウンターで、大学院生の先輩たちが様々な相談に対応しています。その内容は図書館資料の活用法や、レポート課題の選び方、勉強のコツなど。学習サポーターを務める彼等も、学部生たちの質問に答えられるように日々努力や工夫を重ねています。時にはこっそり復習や確認をしていることも……。今回はそんな学習サポーターの皆さんにインタビューをしました♪



齋藤 祐佳里

大学院博士課程
日本文学専攻

Q. 大変なことや工夫していること
を教えてください

資料を探す作業は、相談者本人にキーワードを考えてもらって、データ検索も自分でやってもらうようにしています。それから、授業のことで相談を受けた場合には、その内容を先生へ報告するようにして、助言をいただくこともあります。

Q. 印象に残っている相談は

ゼミ演習の資料作成の相談を受けた時のこと。「『尊卑分脈』を実際に使ってみよう」と話して、索引から引いてもらいました。音読み、訓読みがあることを相談者が気付いてくれて、さらに他の関連資料にも興味を持ってもらえました。アドバイスのツボを見つけた!と思いました。



大場 裕介

大学院修士課程
臨床心理学専攻

Q. 学習サポーターのお仕事にあたって
心がけていることはありますか

分かりやすい説明ができるように心がけています。どんな言葉を使ったら伝わりやすいんだろうということを、いつも考えるようにしています。

Q. 相談者の皆へメッセージをお願いします

有意義な大学生活になるように、学習サポーターのこともどんどん活用してもらいたいと思います。気軽に相談しに来てください。

平成21年度
図書館利用状況

利用者：本学学生（学部生・大学院生・研究生・科目等履修生・聴講生）
教職員
その他（本学教職員・同窓生・明星大学通信教育生・いわき市民・高大連携該当高校）

入館者数：107,032人、1日平均 383人（年間開館日数：279日）

貸出冊数：17,934冊 内訳（学生 14,347冊・教職員 2,083冊・その他 1,504冊）

レファレンス：学内 268件 内訳（文献調査 114件・事項調査 12件・利用指導 142件）

レファレンス：学外 文献複写 内訳（依頼 962件・受付 272件）
相互貸借 内訳（依頼 29冊・受付 109冊）

市民利用登録数：276人 内訳（男 147人・女 129人）

図書館トピックス

「Group デスク」運用開始

学習センター2階に、学生の小グループによるネット利用学習、共同作業、発表・発信などを行える場所ができました。

●席数=3卓*各4人席 ●設備=デスクトップPC

「スタジオB」設備増設

学習センター2階「スタジオB」に、大型ディスプレイを設置しました。PCの出力先として使用できます。

「シラバスコーナー」新年度資料へ更新

図書館2階のシラバスコーナーの資料を、22年度シラバスにあわせて更新作業を行っています。

「文献複写」「現物貸借」Web 受付け開始

大学院生に限り、文献および現物貸借の取寄せサービスを、Myライブラリから申込みできるようにしました。

朝日新聞「大学ランキング」で図書館が評価されました

朝日新聞社が毎年発行している、週刊朝日進学MOOK「大学ランキング」2011年版で、図書館部門の全国総合49位になりました。

掲示板を設置しました

館内の3箇所に掲示板を設置しました。

■設置場所

- 図書館1階
：新聞閲覧コーナー横
- 学習センター1階：ゲート横
- 図書館2階：シラバスコーナー横



日曜開館と土曜時間延長します

定期試験に伴い、7月、12月、1月は図書館と学習センターの週末開館時間を拡大します。

（土） 8:45 - 19:00（通常月は17:00まで）

（日） 8:45 - 17:00（通常月は休館日）

「いわき図書館サービスネットワーク」I-TOSS（アイトス）運用開始

いわき明星大学図書館、東日本国際大学・いわき短期大学昌平図書館、福島工業高等専門学校図書館およびいわき市立図書館との連携事業が開始しました。

■連携事業内容

事業名称「いわき図書館サービスネットワーク」
略称：I-TOSS（アイトス）

事業開始日：平成22年7月1日（木）

事業内容：

- ・I-TOSS 加盟図書館から借用した資料を、他のI-TOSS 加盟図書館で返却ができます。
- ・I-TOSS 加盟図書館で、市立図書館利用者の予約図書を受け取り、返却ができます。
- ・I-TOSS 加盟図書館は、それぞれが発行する資料等を交換し、必要に応じて利用者へ提供をいたします。（相互貸借）
- ・資料はいわき市立図書館が運行する巡回車がI-TOSS 加盟図書館間を搬送いたします。

【イメージ図】

